



## 力を合わせて鬼退治! 津奈木保育園豆まき

2月3日(金)、津奈木保育園で節分の豆まきが開かれました。和やかな雰囲気の中、突然大きな鬼が出現。園児たちは勇気をふり絞り「鬼は外、福は内」の掛け声とともに豆を投げました。中には鬼の恐ろしい形相に泣き叫びながら必死に逃げ回る園児も。見事鬼を追い払った園児たちは「やったー!」と喜びの声をあげました。



↑鬼の出現に逃げ惑う園児たち

## 自然の力で環境保全 大地の再生講座

2月10日(金)、古中尾地区の里山で大地の再生講座が開かれました。これは町が農業や土壌改善・環境整備に役立てるために企画したもので、町内外の農家や林業関係者50人が参加。講師の矢野智徳さんは「水や空気の流れを良くすることで良い土地ができる。まずはその流れを感じる事が大切」と話していました。



↑水の流れについて話す矢野さん



↓記念品の花束を抱える松永さん(中央)

## 長寿を祝って 松永マツエさん100歳祝い

2月3日(金)、松永マツエさん(染竹)が100歳の誕生日を迎えました。施設に入る前は新聞などの文章を読んだり、よく散歩をし、人との交流が好きだった松永さん。ご家族に話を聞くと「ふのよかつ」という言葉を使っていたとのこと。これは昔たくさん苦労した分、今は巡り合わせが良いという意味が込められているそうです。



↓受賞の報告に来られた津奈木町婦人会

## 多彩な活動で地域を支える 熊日緑のリボン賞

2月8日(水)、津奈木町婦人会が第126回熊日緑のリボン賞受賞報告のため、町長を表敬訪問されました。同会はつなぎ美術館の喫茶室運営やモノレール運行、下校時の子どもの見守りなど数々の活動を通じて地域を支えています。会長の石田ミサ子さん(桜戸)は「小さな町だが、みんなで力を合わせて盛り上げていきたい」と話していました。

## 給食で地元産加工品を提供 津奈木産加工品の学校給食利用

1月30日(月)、小中学校と幼稚園、保育園の給食で甘奈津パイが提供されました。これは町が企画したもので、コロナ禍で販売が停滞している農産加工品の消費拡大と地元産品の素晴らしさを子どもたちに再確認してもらうことを目的としています。園児たちは「甘くておいしい!」と言いながら笑顔で甘奈津パイを頬張っていました。



↑おいしそうに甘奈津パイを頬張る園児

## 子どもたちのスポーツ活動のために 新たな用具を購入

2月1日(水)、町が購入したバットやハードル、剣道具、バスケットゴールなどが「つなぎっ子クラブ」のチームに渡され、クラブを代表し、野球・陸上クラブが用具を受け取りました。これは公益財団法人ライフスポーツ財団から補助を受け、購入したもので、児童たちは「いただいた用具を使ってこれまで以上に練習に励みたい」と話していました。



↑用具を受け取った野球・陸上クラブの児童たち



↓笑顔で記念撮影をする大森さん(中央)

## これからも健やかに 大森シズコさん100歳祝い

1月27日(金)、大森シズコさん(倉谷)が100歳の誕生日を迎え、町長からお祝いの言葉と賞状、記念品が贈られました。大森さんは「多くの人に支えられ、この日を迎えることができ大変うれしく思います。長寿の秘訣はとにかく好き嫌いを何でもよく食べることです」とはきはきと話していました。



↓受賞した坂口さん(左)と福島さん(右)

## 農業の振興・活性化に貢献 熊本県農業コンクール大会

1月31日(火)に開かれた農業コンクール大会。(株)アグリ津奈木の坂口信行さん(上下門)が経営体部門優良賞、福島育子さん(古中尾)が地域貢献賞を受賞しました。坂口さんはドローン導入などによる農作業の省略化、福島さんはJA女性部津奈木支部長として高齢者への手作り弁当の配布などの活動が評価され、受賞に至りました。